



民主党議員団

森 たかゆき

平成26年度決算

四季の森公園の芝生はいつも養生中で、維持管理費が高額なのに使用できないのは問題である。平和の森公園のように草地化するなど、経費の抑制策を考えるべきでは。

四季の森公園は中野の顔としてにぎわいを見せており、維持管理にはこれまでと同様の経費がかかる。今後もしっかりと維持管理していきたい。

保育行政

保育事業者が保育士の確保に苦慮している現状を鑑みて、保育士宿舎借り上げ支援、いわゆる家賃補助の事業を活用してはどうか。

各保育施設の実態や他区の実施状況を調査し、政策効果について検討を進めている。園庭のない保育園は遊び場の確保に苦勞している。学校の校庭利用を考慮しては。



自由民主党議員団

高橋 かずちか

中野駅周辺地区まちづくり

ユニバーサルデザインの重要性が謳われる中、中野駅から中野二丁目地区や圃町地区への動線が直接繋がっていないが、改善できないか。

今後の具体的な施設の計画整備の中で実現していく。駅を起点とした周辺のまちづくりには回遊性の確保が重要である。駅との動線や中野二丁目五丁目へのユニバーサルデザインに配慮したアクセスを、開発事業者へ与条件として示すべきではないか。

ご指摘の点はまちづくりの整備に重要な要因であり、今後とも打ち出していきたい。

平交通問題

区内の南北交通や交通空白地区の問題への認識は。他自治体の事例等を研究



園児の安全管理に配慮しながら、実現について学校と調整中である。

妊娠・出産・子育てトータルケア事業

全妊婦と面接して支援プランを作成することだが、心身に問題があり、すこやか福祉センターまで来られない人にはどう対応するのか。

自宅訪問を考えている。一度支援プランを作成しても、短時間で状況が変化することもあり得る。ケアのためには随時、見直しが必要と

自殺対策

区のみさまざまな取り組みにより自殺者数は減少しているが、若年層、特に30代前半の自殺が減っていない現状について、見解を伺う。

中高年に比べ若者の自殺は減っていない。講演会のテーマや大学との連携等、若者に向けた対策を継続していく。



公明党議員団

木村 広一

少子化対策

中野区において、人口を維持、増加させていくためには、出生率とともに移動率でも基本目標や指標を掲げるべきと考えるがどうか。

目標を設定することについて検討していきたい。

人口ビジョンが明らかになった後に、今後の世代間の負担の公平化を図るために、長期的な財政の見通しが必要になる。持続可能な行財政運営のために、人口ビジョンにあわせた財政の見直しをどのように示していくのか。

人口データは、歳入面では納税義務者の推移、歳出面では社会保障経費の動向に大きく影響するため、人口ビジョンを踏まえて示していく。不妊治療は結婚からの具体的な支援として最も有効な



日本共産党議員団

羽鳥 だいすけ

白鷺せせらぎ公園等の利用

白鷺せせらぎ公園の施設予約が「ないせすネット」でできないのはなぜか。

「ないせすネット」接続の有無で、施設の稼働率に違いはあるか。

接続されている施設の利用率は、中野体育館95・5%、鷺宮体育館91・2%、上高田運動施設81・6%、哲学堂運動施設82・8%、妙正寺川公園運動広場71・5%となっており、接続されていない白鷺せせらぎ公園は、31・9%で

ある。

今後整備される本町五丁目公園や南部防災公園内の運動施設は、どうなるのか。

今年度の開園時には接続できないが、システムの更新時には白鷺せせらぎ公園も含め接続し、利用可能としたい。

区内交通の充実

区が3年間補助を行っていたコミュニティバス「なかのん」の運行状況と補助額は。

1日に往復51便の運行で、区の補助は、車両購入費が約3400万円、バス整備費が320万円、運行経費が3年間で4500万円であった。3年間の利用実績は、当

初の子測と比べどうだったか。

1便当たり平均9・4人と予測していたが、実績は平成18年度は平均約11人、19年度約13人、20年度約14人であった。

23区でコミュニティバスを廃止した自治体はあるか。

他に例はない。区が補助をし運行を復活すべきではないか。

現在は民間バス事業者が運営しており、区の補助は考えていない。

地球温暖化対策

区は、地球温暖化を抑制するにあたってどのような数値目標を掲げているのか。

平成31年度のCO2削減目標値は78万6000トンである。

行政評価

外部評価委員会の評価に実効性が伴っていないとの指摘について、見解はどうか。

結果の適時把握に努め、見直しや改善は、翌年度の予算で検討中の主な取り組みの中で区民に説明していきたい。

公開ヒアリングは、土・日や夜間など、多くの区民が傍聴できる日程で開催しては。今後とも広報を一層工夫するとともに、外部評価委員の参加を考慮し検討していく。

国際交流

自治体間の国際交流は、

目標値に対して、現在の達成状況は。

平成24年度推計で106万2000トンである。

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の第5次報告書では、「人間活動による気温上昇を産業革命前に比べ2度未満におさえることが必要」と指摘しているが、どのように認識しているか。

地球温暖化対策のさまざまな議論に科学的根拠を与える重要資料と受け止めている。報告書における科学的知見に基づいてCO2削減目標を立てるべきではないか。

今後国の動きなども踏まえ、区の削減目標を確定していく予定である。



民主党議員団

中村 延子

区民に還元されなければならぬと考える。区の見解は。

行政間で交流の基礎作りを行った後、市民レベルの交流に結び付けていきたい。

外国人留学生の雇用について、需要と供給がうまくマッチしていない。「ぐっジョBなかの」にも東京外国人雇用サービスセンターのリンクを張るなどの対応をしては。

対応を検討していきたい。

平和への取り組み

区内の中学校の道徳授業地区公開講座で、被爆2世の話があったが生徒の反応は。

愛犬・愛猫手帳には同行避難に関する記述がない。記載を考へるべきではないか。

担当と連携しつつ改定時に詳しく記載する予定である。

動物愛護

中野区も殺処分ゼロを明確に目指していくべきでは。

飼い主の責任等を区民に普及啓発し、結果として殺処分がなくなることを目指す。